

2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月30日
- 事業名 : 社会事業化支援特化型のコミュニティ財団設立に向けて
- 資金分配団体 : 一般社団法人全国コミュニティ財団協会
- 実行団体 : 一般社団法人リズカーレ

1 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
西条市内の個人・法人からの寄付金を集める仕組みができている	1 寄付金受領額(助成用+設立拠出金)	1 15,000,000 円	2024 年 3 月末	1. 4,885,252 円	3
	2 個人向け説明会開催数	2 20 回		2. 1 回	
	3 個人向け説明会参加人数	3 720 人		3. 6 人	
	4 法人営業訪問数	4 150 回		4. 45 回	
	5 チャリティイベント企画数	5 5 回		5. 0 回	
まちづくり電力からの寄付によって、コミュニティ財団の運営費を充当できている	1 まちづくり電力プラン販売件数	1 350 件	2024 年 3 月末	1. 0 件	4
コミュニティ財団の活動が情報発信されている	1 HP アクセス数	1 9,000PV/月	2024 年 3 月末	1. 173PV/月	3
	2 SNS フォロワー数	2 1,000		2. 210	
支援先が活動の成果を見える化できるようになる伴走支援を行う	1 支援先の報告会・レポート発行数	1 30	2024 年 3 月末	1. 0	3
	2 財団のレポート発行数・HP 記事数	2 30		2. 8	
	3 支援先に事業の評価を行うワークショップの	3 20 回		3. 0 回	

	回数				
西条市に社会課題解決を事業化するプログラムができている	1 発掘・支援体制ができている	1 あり	2024年3月 月末	1 できていない	3
	2 助成実績	2 20		2 2	
コミュニティ財団として若者が参加できるプログラムが用意されている	1 ボランティア受入数	1 15人	2024年3月 月末	1. 0人	3
	2 若者のメーリングリスト登録数	2 50		2. 0	
コミュニティ財団がNPO等に若者を参加させるプログラムを提供できる	1 プログラム提供先の団体数	1 5団体	2024年3月 月末	1. 0団体	3
	2 受入人数	2 10人		2. 0人	

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
集団説明会などを行わずに、企業訪問など個別に寄付集めや事業説明を行った。

③ 広報(※任意)

1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)

式典の様様：四国中央レポート、朝日新聞、愛媛新聞、ハートネット (地元ケーブルテレビ)

準備の過程、活動内容等：西条市市報2件 (理事長単独) (設立)、NHK_ひめぼん (密着)、愛媛新聞 (安形のコラム)、愛媛経済レポート (大和証券様のご寄付のタイミング)、フリーペーパー

2.広報制作物等

コミュニティ財団の説明パンフレット、寄付の案内チラシ、勉強会の案内チラシ、助成プログラムの案内チラシ (水)、助成プログラムの案内動画 (水)

3.報告書等

なし

2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	全体	今井博志	えひめ西条つながり基金 代表理事
内部	全体	安形真	えひめ西条つながり基金 理事
内部	全体	星隈英明	えひめ西条つながり基金 理事
内部	全体	亀井始実	えひめ西条つながり基金 理事

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
えひめ西条つながり基金	1 フルタイム従業員数	1 フルタイム従業員数：1人	2024 年 3 月末	フルタイム従業員（事務局長）の確保に苦戦しているが 10 月末に検討している人と面談予定。その動向によって今後の行動を考える。また、パートとして事務のスペシャリストが加入してくれそうであるため、パート従業員に関しては問題ないと判断している。 公益法人化の申請が当初予定より遅くなっているため、寄付集めの本格化も後ろ倒しになっている。
	2 パートタイム従業員数	2 パートタイム従業員数：2人		
	3 中期計画ができている	3 中期計画ができている：あり		
	4 運営財源の確保	4 運営財源の確保：4,500,000円		
愛媛県民	1 寄付の拠出者(延べ数)	1 寄付の拠出者(延べ数)：2,000人	2024 年 3 月末	まちづくり電力に関しては、電力業界の不調もあり導入を保留しており、定期寄付や寄付つき自販機など他の調達方法の検討も考えている。 公益法人になってから本格的に寄付募集を行う予定であり、現状を特に悲観しているわけではなく、体制を整えば達成できると考えている。
	2 まちづくり電力の契約者数	2 まちづくり電力の契約者数：350件		
	3 まちづくり電力からの調達額			

		3 まちづくり電力からの調達額：3,500,000円		
助成先団体	1 人件費が支払えるようになった団体数	1 人件費が支払えるようになった団体数：4団体	2024年3月末	財団が設立されたばかりであり、小さい実績を作っていくことを目指しているため、助成金額が低く、雇用を生み出すことも意図したプログラムを作っていない。
若者ボランティア	1 ボランティア参加者のまちづくりのモチベーションの向上割合 2 コミュニティ財団の若者部会ができている	1 ボランティア参加者のまちづくりのモチベーションの向上割合：90% 2 コミュニティ財団の若者部会ができている：あり	2024年3月末	支援先がまだ少ないこと、ボランティアを要するイベント等を現時点では開催を控えている。
助成先団体	1 プログラムの定着	1 プログラムの定着：100%	2024年3月末	現時点では NPO インターンプログラムの作り方を勉強している段階であり、今年度中に実施予定である。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」 (※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
コミュニティ財団が継続的に運営できる体制になっているか。	十分ではないが着実に前進している	運営体制や寄付者数は不十分であるが、運営に向けた知見の蓄積（助成プログラムの企画立案、寄付の集め方、コンプライアンス・ガバナンスなど）ができてきた。
市民が西条の地域課題に関心を持ち、寄付やまちづくり電力で支えてくれるようになってきているか。	不十分である	まだ財団自体の認知度が低く、市民が課題に関心を持っているような印象はない。直接顔を見せて、伝えていく機会を増やしていく必要があると考える。

支援先の団体が継続的に運営できる体制になっているか。	不十分である	助成プログラムが始まったばかりで評価できる段階ではない。また、今の段階では人を雇用することを想定したプログラムを企画していない。
西条の若者がまちづくりに参加するようになっているか。	不十分である	受け入れるためのプログラムが整備されていない。
西条市内の NPO 等が若者の参加を受け入れられる体制が整っているか。	十分ではないが、前進している	研修を通じて NPO インターンプログラムの準備を行っており、また愛媛県内の大学との連携にむけた情報収集を始めている。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい と自己評価する	若干の進捗の遅れはあるが概ね計画通りであると言える。中心となる人材採用ができれば、スムーズに行くように準備をしている。 まちづくり電力による寄付や助成プログラムの目的など、一部、事業計画の見直しが必要な点も見られる。

B) 事業の改善状況の評価

1 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	財団の人材採用・育成は進んでいるか。	不十分である	・要件定義はしているが、まだ採用ができておらず、中心人物である事務局長の採用に苦戦している。 ・研修は適宜受講しており、理事のコミュニティ財団についての理解は深まってきている。
実施状況の適切性	設立寄付キャンペーンは多様な人を巻き込めたか。	できている	設立寄付者の合計は 401 名だった。企業以外の個人は知り合いのネットワークでつながっていったので、約 60%は新しいつながりだった。コロナ禍で一般市民向けに説明会などはできなかったが、企業回りなどで多くのコミュニケーションを行った。また助成プログラムを作成するプロセスに市民を巻き込んだ。
実施状況の適切性	財団運営及び助成事業の寄付を集めるためにどのような戦略が必要か。	不十分である	現在、残り 4 つの助成プログラムの企画立案をしている途中である。また、財団運営に必要な資金調達の仮説・見直しはあるが実行が不十分である。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	今後、助成プログラムの企画立案・公募・審査のプロセスを展開していく際の課題と対応策が検討されているか。	十分とは言えないができてきている	助成プログラムを実施してみて、全体の流れと課題が見えてきており、課題に対する対応もできている部分もある。ただし、十分に振り返りに時間をかけられておらず、より良い助成プログラム運営にはつなげられていない。

2 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

前事務局長代行がいたことで財団設立期における寄付金集めや企業等に対するヒアリングが大きく進められた。ただし、同代行が抜けた後、事務局長の採用が進んでいないこととコロナ禍対応が全体の進捗を遅滞させている。

3 事前評価時には想定していなかった成果

- ・物価高騰等の煽りによって、まちづくり電力事業が非常に難しくなったこと。
- ・財団設立後、大和証券から寄付をいただけたこと。
- ・財団設立後、日本政策金融公庫からソーシャルビジネス支援に関する覚書を結ぶ提案があった。

・財団設立後、地域の個人・団体から相談が来るようになった。話を聞いてほしい、何ができるか教えてほしいという問い合わせが多い。



4 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある <input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている <p>と自己評価する</p>	<p>多少進捗に遅れはあるが、概ね挽回可能なレベルであると考えており、大きな事業計画の変更はしない。</p> <p>今後の取組として、まちづくり電力事業からの寄付は諦め、個人の少額定額寄付を集めるようにする。また、人を雇用するレベルの事業提案に対する助成プログラム立案にも挑戦していきたい。そして、財団として何ができるかをより発信していく必要がある。</p>

5 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

事務局長採用と個人定額寄付を集めるための戦略策定。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



西条市市長表敬訪問



大和証券様からの寄付金贈呈式



水の助成プログラム企画ワークショップ